第32号

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
日本赤十字北海道看護大学

看護開発センター主催の市民公開講座の開催

平成二十三年十月二十二日（土曜日）午後一時から三時まで看護開発センター主催で市民公開講座が本学講堂で開催されました。

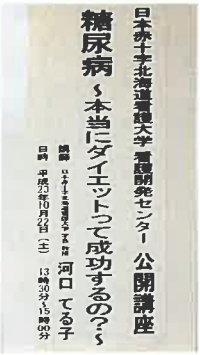
講師は本学の河口てる子学長で「糖尿病―本当にダイエットって成功するの？―」というテーマの講演でした。

血管や神経と血糖の関係についてや、糖尿病食事療法での行動変容、生活習慣を変える援助原則など患者が糖尿病を理解し、どのようにしたら食事療法を続けられるかについて大変興味深いお話でした。

出席者は一般の方、学生、教職員合わせて一二一名と多くの参加者で盛況のうちに終了いたしました。

参加者のアンケートの大多数は、①開催時期「良かった」、②開催時間「ちょうど良い」、③会場「良かった」、④講演内容「良かった」と大変良い評価をいただきました。

また、今後の公開講座に希望されるテーマについても多数のご意見をいただき、看護開発センターではこれらのご意見を参考にして、今後も定期的に市民公開講座を開催する予定でおります。



講演会
「個性を生かす地域づくりを目指して」について
―精神障害と共に生きる当事者の語りからのヒント―

本学を会場に七月二十六日の夕方、浦河町にある「べてるの家」の活動状況と支援の実際について、精神保健福祉士や精神障害当事者の皆様による講演会を開催しました。

精神障害を抱えながらの地域社会での生活、浦河町に根ざした社会活動、ピアサポーターとしての支援活動などの体験談を通して、精神障害当事者として日々感じている思いや地域の人々へ伝えたいことをお話ししていただきました。

ユーモアを交えながらのお話で会場は笑い声に溢れ、心和む時間を共有することができました。

参加者の皆様からは、「精神障がい者を身近に感じ、参加して有意義であった」という感想が多く聞かれました。

平成二十三年度 保護者懇談会

平成二十三年十月十六日(日)、五十八名の保護者に参加いただき、平成二十三年度保護者懇談会を開催しました。参加者の中には四回目の参加が一名、三回目の参加が五名いらっしゃいました。

河口てる子学長のご挨拶で開会し、柳原真知子学部長より本学看護教育の概要の説明があり、続いて希望者(二十八名)は、学内の見学に参加されました。

また、同時に本学食堂において個別懇談が行われました。

個別懇談には、一年生十組、二年生七組、三年生六組、四年生十二組の希望があり、食堂内にブースを設定して学年担任及び学生委員が学生の成績や学生生活等について個別の相談に応じました。

参加者からのアンケート結果の多数は、①開催時期「ちょうど良い」、②施設見学「満足した」、③個別相談「満足した」、④保護者懇談会で得られた情報量「十分」、⑤保護者懇談会全般「満足した」という評価をいただきましたが、ご意見の中には保護者懇談会の内容及び進め方に対する要望もありました。

これらのご意見を参考にして、今後も保護者懇談会の充実を図っていきたいと考えております。

平成二十三年度 オープンキャンパス

七月二十四日(日)、九月二十五日(日)の両日、平成二十三年度オープンキャンパスが開催されました。高校三年生を中心に、一・二年生や保護者の方々、引率の先生方を含め、延べ四一〇名の参加者がありました。

講堂での学長挨拶から始まり、大学教育の概要並びに入試に関するガイダンスを行いました。

次に、講義室にて、成人看護学領域の尾山准教授による「赤十字の誕生と看護」と題した模擬講義を開講した後、参加者の皆様には、自由に学内見学をしていただきました。

各演習室では様々な器具を手に取り、患者モデルを使って採血や聴診の体験、乳幼児モデルの清潔援助などを体験することで、看護への興味を深めていたようです。

学生ホールにおいて、在学生による学生生活相談室を設けたところ、多くの参加者が訪れ、現役大学生の生の声を聴くことができ、大学生活への憧れを強めていました。教員による進路相談では、奨学金や入試に関する質問に集中しておりました。

また、第二回オープンキャンパスの際には、七月三十一日から八月四日までの、学生ボランティア団体による被災地・陸前高田での支援活動の報告では、参加者の皆様が大変興味をもたれた様子でした。

来年度以降も、さらなる内容の充実を図り、受験生の意欲を刺激できるようなオープンキャンパスを開催していきます。

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

本学では、八月十一日、十二日の二日間、独立行政法人科学技術振興機構の支援事業である平成二十三年度の「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」として採択された講座型学習活動「命の制御・心臓と血液を科学する」を、本講座の連携機関である北見北斗高等学校、北見柏陽高等学校、北見緑陵高等学校から多くの学生の参加を得て開催いたしました。

第十三回 大学祭が盛大に開催されました

二〇一一年六月二十五日・二十六日、第十三回大学祭が開催されました。今回のテーマは「Heart to Heart」でしたが、東日本大震災により被災された方々の心になにか私たちは届けることはできないか、私たちがほんの少しでも日本に元気を分けられないかと思い、大学祭を盛大に行なうと実行委員をはじめ学生一同、一生懸命準備を行ってきました。今年は大学祭の数日前から天候は不安定で、正直雨が降るのも覚悟していましたが、当日は二日間とも日差しが差し、とてもすごし易い大学祭日和となりました。例年通りの模擬店出店やヘルスチェック・看護体験だけではなく、大学祭にご来場いただいた方々や一般生徒に協力を得て、被災地の方に向けたメッセージを書いてもらい、それを被災地に贈るという活動もしました。また、チャリティーグッズの販売を行い、利益を日本赤十字社に募金させていただきました。

また、中庭のステージで行われたイベントは部活動の発表などが行われ、中でも薄荷童子は多くの地域の方々に来ていただき、活気あるものになりました。そして大学祭の閉めである打ち上げ花火は、夏の夜の空によく栄えて、心に残るものとなりました。

今回の大学祭を行うにあたって協力いただいたすべての方々、大学祭へ足を運んでくださった方々に感謝を感じると共に、この大学祭で皆さんの心になにか伝わるものがあればいいなと思っています。

ひらめき☆ときめきサイエンス

「ひらめき☆ときめきサイエンスは、大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小学校五・六年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。

本学では小・中学生及び高校生を対象にしたひらめき☆ときめきサイエンス『目に「見えない」しょうがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう』（実施代表者：日本赤十字北海道看護大学 看護学部 講師 吉谷 優子）を、三十五名の子どもたちの参加のもと、平成二十三年十月一日（土）に開催しました。

本プログラムでは、将来を担う子ども達がしょうがい者と触れ合う機会を設け、しょうがいの中で、特に見た目にはわかりにくい「精神しょうがい」を持つ人との交流を通して、しょうがいの多様性と必要な支援、「ノーマライゼーション」実現について考える機会を設けることを目的にプログラムを考えました。地域の障害者就労支援施設に通所する精神しょうがい者（「社会福祉法人北の大地」の適所利用者の方等の協力を得て実施しました。）、子ども達、学生アルバイトを交えて7グループに分かれ、しょうがいの体験、しょうがい者との交流の体験、などを語り合いながら、「ノーマライゼーションが実現された将来のまち」という絵を各グループで作成し、楽しみながらノーマライゼーションを考えました。

最後に受講者ひとりひとりに河口学長から修了証書が手渡され、「未来博士号」が授与されました。

総合科目Ⅰ フィールドワーク知床

七月二日(土)、斜里町にある知床自然センターにおいて、昨年に引き続き、総合科目Ⅰのフィールドワークを行ないました。自然センター内では、ダイナビジョンを使用した知床の自然全般に関する講義、知床自然センタースタッフの方々による、知床がいかにして自然遺産になり得たか、また世界遺産登録後の現状とその課題についての講義を受けました。時にはクイズ形式を取り、学生に興味を持たせるような意義深い講義でした。

屋外では、森の復元を目指す取り組み「一〇〇平方メートル運動の森・トラスト」の現地見学を行ないました。エゾシカに樹皮を食い剥がされ枯れていく樹木と、エゾシカの食害から守るための保護シートに巻かれた樹木を、実際に見ることができました。時にはクマ避けのために、グループ皆で大声を出しながら、歩き続けました。また、現在は空き家となった開拓農家のお宅を見学させていただき、学生たちは開拓当時の生活の困難を想像していたようです。

知床自然センターのスタッフの皆様、大変お世話になりました。

平成二十四年度入試情報

(看護学部)

推薦入学試験(定員四十五名)、社会人入学試験(定員若干名)が十一月十三日(日)に本学及び札幌を会場にして行われました。推薦の受験生一〇四名及び社会人の受験生十名が小論文と面接の試験を受験し、推薦入試で五十四名、社会人入試で二名が合格しました。

一般入学試験(定員四十五名)は、平成二十四年二月四日(土)に本学、釧路、帯広、旭川、札幌、函館、東京の七ヶ所の会場で実施し、合格発表はセンター入試(定員十名)も併せて平成二十四年二月十日(金)に行われます。

(看護学研究科)

推薦入学試験及び前期の一般入学試験が九月十一日(日)に本学を会場にして行われ、三名が合格しました。

後期の一般入学試験は、平成二十四年二月二十六日(日)に本学で実施し、合格発表は平成二十四年二月二十九日(水)に行われます。

● 奨学金貸与状況 ●

平成23年11月現在

名　称	貸与金額	1年生	2年生	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部奨学金	年額 60万円~102万円	70	59	67	66
日本赤十字社看護師同方会	月額 2~3万円		2	1	2
北海道看護職員養成修学資金	月額 3.2万円	4	2	4	4
北見市立大学生奨学資金	年額 60万円限度	33	26	33	32
北海道厚生連奨学金	月額 4万円~8万円				7
北海道看護協会奨学金	月額 3万円		1		1
日本学生支援機構 第1種奨学金	月額 5.4~6.4万円	23	15	21	14
きぼう21プラン奨学金	月額 3~12万円	52	49	41	33
日本赤十字社医療センター奨学金	年額 60万円		1		
武蔵野赤十字病院奨学金	年額 60万円		1		4
さいたま赤十字病院奨学金	年額 60万円				
横浜市立みなと赤十字病院奨学金	年額 60万円				1
秦野赤十字病院奨学金	年額 120万円	1	1		
名古屋第一赤十字病院奨学金	年額 48万円			1	
日本赤十字社和歌山医療センター奨学金	年額 60万円		2	3	1
日本赤十字社福島県支部奨学金	年額 120万円				1
日本赤十字社千葉県支部奨学金	年額 75万円		1		
日本赤十字社兵庫県支部奨学金	年額 60万円		2		

教職員人事

【退職】

平成二十三年九月三十日付

助　手　造田　亮子

【採用】

平成二十三年九月一日付

講　師　成島ますみ

平成二十三年十月一日付

講　師　園田　裕子

助　手　出水美菜子

編集後記

第三十二号+VIVA KANGOをお届けいたします。看護開発センターの公開講座、保護者懇談会、大学祭を中心に構成されています。一年を振り返る縁としていただければ幸いです。今年は例年になく暖かい日が続きましたが、十一月半ばで一気に寒さと雪が到来しました。どうぞ皆様体調に留意されてお過ごし下さい。

日本赤十字北海道看護大学学内誌
Viva Kango
日本赤十字社
第32号

発行日／2011年11月31日
編集・発行／広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp